

大学入学者選抜改革推進委託事業

背景・課題

- 高大接続改革を実現するためには、高等学校教育と大学教育の接続面である大学入学者選抜において、「学力の3要素」(※)を多面的・総合的に評価し、大学教育における質の高い人材育成につなげていくことが重要。このため、個別大学の入学者選抜において、「思考力等」や「主体性等」を十分に把握、評価することが必要。

(※ 学力の3要素:①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

事業概要

個別大学の入学者選抜における「思考力等」や「主体性等」の評価を効果的・効率的に推進するため、代表大学と連携大学等の協働により、以下の調査研究を実施し、その成果を発信・普及する。

- ① 個別大学の入学者選抜改革における課題の調査分析及び分析結果を踏まえた改革の促進方策に関する調査研究
- ② 次期学習指導要領改訂(※)の方向性等も踏まえた「思考力等」をより適切に評価する教科・科目横断型・総合型の評価手法や、「主体性等」をより適切に評価する面接等の手法に関する研究・開発

(※ 次期学習指導要領に向けて、国語科や地理歴史科、情報科等における必修科目の見直しや、数学と理科の知識や技能を総合的に活用する選択科目の設置などが検討されている。)

【実施区分】

- 人文社会分野（国語科、地理歴史科・公民科）、理数分野、情報分野の評価手法（各1件）
 - 面接や書類審査等教科・科目によらない評価手法（1件）
- 計5件

事業成果

- 大学入学者選抜の改革を進める上での具体的な課題・問題点の抽出、解決策、改革促進方策の提示
- 多面的・総合的な評価を推進する新たな評価手法の蓄積・普及



各大学の入学選抜改革を推進するため、研究成果を全国の大学に発信